

人と夢を紡ぐコミュニケーションマガジン

# FD

Fine

Dream

NO. 35 福岡大学学園通信  
October, 2011



深<sup>しん</sup>

AUTUMN



人をつくり、時代を拓く。

福岡大学



FDは、「この福岡大学のキャンパスで在学生の皆さん一人一人が、美しく素晴らしい夢(Fine Dream)を育んでくれるように」との願いを込めるとともに、あわせてFUKUOKA DAIGAKUの頭文字を構成し、愛称として名付けられています。

# 「深」 深く学び、深く考え、深く語り合う。

Contents

- 3 特集「生きるということ」特別座談会
- 9 東日本災害ボランティア「福岡大学派遣隊」
- 13 先生の研究  
築山 泰典 スポーツ科学部准教授  
人と人のかかわりを生む野外教育の研究ーキャンプを通じて日常に新たな視点を一
- 15 充実Campus Life  
人文学部ドイツ語学科 3年次生 鷲海 大地さん
- 17 時は流れて
- 19 時代を駆ける先輩たち  
福岡市消防局 西消防署 森田 浩章さん
- 21 就活日記Myチャレンジ  
○北九州市保健所 遠藤 紀子さん  
○株式会社 福岡銀行 久保 明子さん
- 23 知っていますか?  
「血液型」
- 24 カラダのカガク  
運動を考える【前編】
- 25 FUKUDIARY  
オープンキャンパス
- 26 絆エッセイ/ヒューマン デイバロップメント センター
- 27 ARCHIVE-甦る記憶-  
【キャンパスは美術館】
- 28 ななくま通信
- 32 平成22年度学校法人福岡大学収支決算
- 35 平成23年度科研費の採択結果
- 37 地域の福大サポーター

FD  
Autumn 2011  
NO.35

第35号(通巻205号)平成23年10月17日発行  
編集・発行:福岡大学広報委員会(福岡大学企画部広報課)  
〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1  
TEL:092-871-6631(代) E-mail:fupr@adm.fukuoka-u.ac.jp

『FD』に対するご意見、ご感想をお寄せください。

より良い広報誌づくりのために、本誌に対する読者の皆さまからのご意見、ご感想などをお待ちしています。また、情報漏洩などありましたらお知らせください。

## 建学の精神 思想堅実・穩健中正 質実剛健・積極進取

### 【教育研究の理念】

「人材教育」と「人間教育」の共存  
「学部教育」と「総合教育」の共存  
「地域性」と「国際性」の共存

### 福岡大学の 三つのポリシー

#### アドミッションポリシー

本学の「建学の精神」を理解した、次のような人々を広く国内外から受け入れます。

1. 考え方がしっかりしており独断や偏見にとらわれない生き方を求める人
2. 温かで包容力がありバランス感覚に優れた能力を身につけた人
3. 誠実で責任感が強く何事にも届しない人生をめざす人
4. 新しいこと、困難なことに自ら進んで取り組んで行うこととする人

#### カリキュラムポリシー

本学の「教育研究の理念」に基づき、すべての学生に提供する「共通教育科目」と、各学部学科に設置する「専門教育科目」の二つを大きな柱とし、それぞれの学部学科の教育目標にあわせてカリキュラムを編成します。また、正課外教育においても、充実した各種教育プログラムを展開し、全教職員で本学学生の人的成長を支援し、全人教育を実現します。

1. 全学に提供する共通教育科目をとおして、専門性にとらわれない幅広い視野と豊かな人間性を持つ人材を育成
2. 各学部学科が設置する専門教育科目をとおして、専門的な知識や技能を高め、社会の進歩や変革に即応する深い学識を有する人材を育成
3. 様々な教育プログラムをとおして、国際性と地域性を兼ね備えた21世紀に通用する人材を育成

#### ディプロマポリシー

本学の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. 修得した知識・技能・態度により、自らが発見した新たな課題を解決する力
2. 職業生活、社会生活に必要な知的活動を支えるコミュニケーション能力や論理的思考力
3. 自律しながらも他者と協調して行動でき、社会の一員として社会の発展に寄与できる力



知識や見識が深いことを「深識」という。  
深く考え思い巡らすことを「深慮」という。  
心を許し合って付き合うことを「深交」という。  
大学はまさに「深」を求める場所。  
深く学び、深く考え、  
友と深く語り合うことが、  
あなた自身の「深化」につながっていく。

# 深

特別座談会  
“生きる”  
ということ。



# 生 と き る と い う こ と。

日本中の人々が、命の尊さを考えた「3・11」。  
半年が過ぎた今、私たちはあらためて「生きていることに感謝し、  
「生きる」ということについて、真剣に考えてみるべきではないでしょうか。

## 生は偶然、死は必然

医療の現場で命と向き合う先生方、臨床心理や哲学の分野で命を考える先生方にお集まりいただき、特別座談会を開催しました。先生方が、それぞれの立場で語る「生きる」ということ。そこからきくと、命の大切さが見えてくるはず。

瓦林 ● まずは私が入学前の高校生によく伝えている言葉について、皆さんの意見を伺いたいと思います。「生は偶然、死は必然」という言葉です。人は自分の意志で生まれてくるわけではありませんが、誰もが平等に年を取ってやがて必ず死んでいく。だからこそ、生きていく今を大切にしたいという気持ちで、この言葉を伝えていきます。

石倉 ● 「死は必然」というのは、とても考えさせられる言葉です。その言葉に対する「パンドラの箱」として延命治療は日々発達していく。人が生きる期間というのはいらない誰

が決めるのか。本来は本人の生命力が決めることなのでしょうが、私たち医療人は常に「この人を助けなければ」という思いがある。医療にかかわる人間にとって、シレンマの中の戦いです。

中川 ● 私も看護師としてシレンマを感じる日々です。延命治療の良し悪しを一般論で語るのと、治療を受けている本人やその家族の立場で語るのとでは「死は必然」というとらえ方も異なってくるように思います。看護という現場では、ご本人やご家族のお気持ちに合わせていきますし、今の医療ならさまざまな延命治療を施すこともできるだけに、死を必然だと考えることが難しいところもあります。むしろ延命治療が発達していなかった昔の方が、自然な形で死を必然だととらえることができ、幸せだったのかもしれません。



瓦林 達比古 先生

林 ● お二人がおっしゃるシレンマとは「生物として物理的に生きていくこと」と、「生きていくことの意味を問いたがら生きる」との違いはないでしょうか。私は学生時代に精神科医ウィクトール・フランクルの「夜と霧」という本を読んで、大きな衝撃を受けました。大戦中に強制収容所に入られた人にとつて、過酷な現実を生きているという



副学長  
瓦林 達比古 先生

産婦人科(周産期医学)が専門の医学博士。毎週月曜日に福岡大学病院で外来を担当しながら、医学・医療・健康面を担当する副学長として幅広い活動を行っている。



臨床心理センター長  
林 幹男 先生

人文学部教育・臨床心理学の教授として、臨床心理学の研究を進める一方で、社会福祉法人「福岡いのちの電話」理事長として自殺防止の活動も進めている。



福岡大学病院救命救急センター長  
石倉 宏泰 先生

救命救急医学の教授で医学博士。医学生に対しては「どのような患者に対しても初期診療ができるゼネラリストを育てること」をモットーに教育を行っている。



人文学部文化学科准教授  
平井 靖史 先生

フランスのヘルツォン、ドイツのライプニッツという二人の哲学者を中心に研究を進めている。一時は画家を目指し、美術大学で油絵を学んだ経歴もある。



福岡大学病院手術看護師長  
中川 朋子 さん

福岡大学附属看護専門学校卒業後、福岡大学病院に勤務。福岡大学病院手術部でトータル19年勤務。九州大学大学院で研究し、医療経営・管理学修士でもある。

は、意志を持って生きる意味(目的)を持ち続けることでした。アウシビツ(収容所)のような極限状態では、生きる意味を探す余裕などないわけです。しかし今日では、極限状態はともかく、むしろ自分が直面する現実と真摯に向き合う努力なしには、生きる意味を見いだすことは難しいのではないのでしょうか。生きる意味なんて生きてみなければ分からないものかもしれません。生まれてきたことが偶然であつても、生きることに意味は必然的に自らの生きる責任に付随するものですね。

**石倉** ●日本人の命に対する考え方というのは時代とともに変化があつたのでしょうか？

**林** ●日本人は、古くから人と人とのつながり、つまり地域や家族との絆で生きてきたところが大きいと思います。しかし、明治時代以降の西洋化の流れの中で、日本人にもアイデンティティーの感覚が芽生えてきた。自立志向が強くなると、



林 幹男 先生

つながりが弱くなつてきたという一面はあると思います。

**石倉** ●やはり横のつながりが希薄になつてしまつたから、自殺者が増えているというところもあるのでしょうかね。

**林** ●自殺までいかなにしても「いのちの電話」に相談してくる人の多くは、結局自分一人では背負い込んでしまつて、誰か話を聞いてくれる人が周りにいるだけで、状況は大きく変化するはずですが、個としてのアイデンティティーは確かに大切ですが、人と人とのつながりがあつてこそ、個人のアイデンティティーがあるということをもっと分かってほしいですね。

**平井** ●人間はほかの動物と違って、「今、ここを超えた何か」を考える能力を持つていると思います。その能力があるおかげで、道徳や芸術や思想が生まれてきたわけですが、それがネガティブに働くこと自殺という考え方に陥つてしまつたのではないのでしょうか。ペルクソンという19世紀の哲学者は、進化論を前提に、知性も人間が進化の過程で獲得した道具の一つだと語っています。しかし、その知性が医療技術の発達をもたらして、与えられた自然の寿命を追い越してしまつたのかもしれないですね。その正負両局面が私たちにジレンマを与えているのではないのでしょうか。

けられる機会が少ないように思えます。  
**石倉** ●確かに、「死は必然」ということを受け入れられない人が増えている

## 過去を「今を生きる力」に

**平井** ●林先生のお話とは違う意味での時間のとらえ方ですが、生物には過去を持つて、いるという特徴があります。長い歴史の中で獲得したもの、遺伝子という種のレベルで引き継いできました。それが進化するとどうなるか。これに加えて人間は、一人の人生の中でも、いろいろな経験を積みながら人として成長していきます。つまり、時間を自分の中に蓄積しながら、過去を「今を生きる力」に変えていくことができるのが人間なのです。

**瓦林** ●それはほかの動物にはないことなので、どうですか？



石倉 宏恭 先生

**中川** ●私たち手術部の中でも、ナラティブレポートを発表しています。自分の行為を言語化し、他者と共有することで、自己の気持ちや承認、またお互いの看護観や倫理観の共有の機会になつています。

**瓦林** ●学生の皆さんにも、これまで生きてきた過去があるわけですから、一度自分を振り返ってみることで、新たな生きる力になる要素を発見してほしいと思います。  
**平井** ●ただ、振り返ることを後ろ向きな

## 死を受け入れるということ

**瓦林** ●哲学的に生死を考えるというのは、何らかの形で人に生きる力を与えていくという学問体系があつたのでしょうか？

**平井** ●よく誤解されるのですが学問の意味においての哲学は、人生観やポリシーを指すものでありません。存

在とは何なのか、生きるとはどういうことなのか、それをどこまでも探求していくのが哲学です。考え抜いて、生きるとは、こういうことだ、というものが出ることがあつたとしても、それには長い時間がかかりますし、その結論もあくまで副産物ではない。一方で道徳や宗教というのは最初から結論ありきなんです。ですから、人はその結論にすぎることが生きやすくなるということはあると思います。

**石倉** ●私たちの場合は、目の前の命をいかに救うかというところで精一杯です。平井先生のように、生きるということを突き詰めて考え、余裕がないのが現実です。人の命を助けながら、自分の命について考えたこともない。それが医療人としてのジレンマにつながっているのかもしれない。

ることは事実ですね。「生は偶然、死は必然」という言葉を小学生の時から教育に取り入れてほしいと思います。



平井 靖史 先生

**中川** ●看護の場面では、科学では救えないような「癒し」というカスピリチアルな部分を求められることが多くなっています。看護する側が、科学的には解明できない宗教的なものや道徳的なものを学び、人間的に成長しなければ患者さんを導いてはいけません。私は「仏教看護」という本を読んでいるのですが、アメリカから入ってくる看護論とは違って、日本人の文化的な考え方によく合っているように思います。日本人の場合は、信仰する宗教がないという方も多くて、キリスト教のような神との契約(自分との結び付き)観念はあまり持っていないですね。一方で人と人とのつながりを大事にする仏教的考え方を持つ人は多くて、やはり日本人には向いているように思います。

**瓦林** ●確かに今の看護関連の本には「癒



被災地で学ぶ「生きる」との意味

行為だと思ってしまう。今の自分を理解するためのボジティブな行爲だと考えよう。過去の自分を振り返るのではなく、今の自分を作り上げていくものだから。

石倉 ● 振り返る機会が少ないですね。学生に対して「目標に向かって進みなさい」と言うことはあつて、「一度振り返つみなさい」と言うことはあまりないですから。

中川 ● ナライブの聞き手としては、人の過去を決して否定せず、肯定してあげることが大事だと思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。



中川 明子さん

中川 ● 平井先生の前で哲学の話をするのは気が引けますが、精神分析学者のフロイトが「困難な状況に陥った時に乗り越えられる一つの要素は、働く場があることと愛する人がいること」と語ったと聞いています。東日本大震災ではその両方を同時に失ってしまった人がたくさんいるわけですよね。そのような方々をサポートするためにできることは、何なのでしょう。

石倉 ● 医学部には仮進級制度があつて、4学年から5学年になる時に仮進級ができます。昨年度、救急医学の単位が取れずに仮進級した学生に「何でもいからボランティアをしない」と課題を与えました。その時は、まさかあのような大震災が起きると思つていなかったのですが、彼らは8月17日から被災地へ行つて、医療部のボランティアに参加しました。海外では、奉仕をする行動に対しても単位を与える大学が多いのもありますが、それにしても、日本の医学生は国家試験だけを目標にしてしまう傾向にあります。被災地のような厳しい環境の中で、少しでも奉仕をする精神や自らの存在意義を感じ取ってくれたらうれしいですね。座学だけでなく、このような現場での活動を経験することが、生きていくことの意味を考えるきっかけになると思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。

石倉 ● 肯定する、認めるという行為は、とても大切なことですね。ナライブは相手の過去の経験をその人の「今」や「これから」に生かすものだから、相手が話すことを肯定するというのは、その人の過去を否定してしまうことになりません。まずは、その人の過去を受け入れることを心掛けるべきだと思います。

生きることは絆を結ぶこと

石倉 ● それでは、最後に学生の皆さんのメッセージをお願いします。

石倉 ● それでは、最後に学生の皆さんのメッセージをお願いします。中川 ● 日本人の平均寿命から逆算すると、私に残された時間は1万日程度しかないんですよ。それを思うと、すべてを今に前向きに考えるしかないという気がしますね。今は本当に時間をいとおく感じています。学生の皆さんには十分な時間があります。今の内から何事もチャレシユする気持ちを持つてほしいですね。それと、う一つ、私は常々「親より長生きしてははいけない」と思っています。それは「人のために生きている」ということでもあります。ガンを終末期の患者さんは、自分が死んだとき、どれだけ周りの人が悲しむかを心配される方が多くいらっしゃいます。人間はほかの動物と違うというお話がありました。それが、誰か人のために生きようとする人間にしかない特徴ではないかと思えます。

石倉 ● それでは、最後に学生の皆さんのメッセージをお願いします。中川 ● 日本人の平均寿命から逆算すると、私に残された時間は1万日程度しかないんですよ。それを思うと、すべてを今に前向きに考えるしかないという気がしますね。今は本当に時間をいとおく感じています。学生の皆さんには十分な時間があります。今の内から何事もチャレシユする気持ちを持つてほしいですね。それと、う一つ、私は常々「親より長生きしてははいけない」と思っています。それは「人のために生きている」ということでもあります。ガンを終末期の患者さんは、自分が死んだとき、どれだけ周りの人が悲しむかを心配される方が多くいらっしゃいます。人間はほかの動物と違うというお話がありました。それが、誰か人のために生きようとする人間にしかない特徴ではないかと思えます。

平井 ● サンテグジベリの小説「星の王子さま」でも、絆の話が出てきます。キツネが王子に絆をつくります。教えるのですが、ぼくは忙しくて時間がないんだ」という王子にキツネは「時間をかけることが絆をつくるということなんだよ」と言うんです。毎日、少しずつ時間を重ねていくことでしか築けないのが絆です。最近はそのような関係が希薄になりつつあるように思いますが、人の絆をもっと意識して生きてほしいと思います。

中川 ● 絆の語源は、牛や馬を手綱で引くところからきているそうです。良い方向に導く関係が絆であつて、ただつながっているだけが絆ではないと思います。

石倉 ● 絆の話とは違いますが、学生時代というのは自由に使える時間がある最後の期間です。だからこゝろ、卒業して社会人になることだけをゴールにするのではなく、もう一度「これでいいのか」と振り返って自分の存在意義を考えてほしいですね。私も最初は理工学部で学んでいましたが、ある時、目の前で倒れた人に対して何もできなかったとをきうかけに医療の道に進みました。平井先生は美術大学を卒業されて哲学の道を選

ばれました。進路を変えるという事は、長い人生の中で見れば全然大したことにはないと思います。平井 ● 私も絵画の世界から哲学の世界に進路を変えた経験者としてお話しすると、今、目の前にある選択肢だけで選ぶのはもったいないことだと思えます。学生の皆さんも約20年生きているのだから、その中の経験を振り返ってみると、きつと新しい選択肢や考え方が見えてくると思えます。

石倉 ● それでは、最後に学生の皆さんのメッセージをお願いします。中川 ● 日本人の平均寿命から逆算すると、私に残された時間は1万日程度しかないんですよ。それを思うと、すべてを今に前向きに考えるしかないという気がしますね。今は本当に時間をいとおく感じています。学生の皆さんには十分な時間があります。今の内から何事もチャレシユする気持ちを持つてほしいですね。それと、う一つ、私は常々「親より長生きしてははいけない」と思っています。それは「人のために生きている」ということでもあります。ガンを終末期の患者さんは、自分が死んだとき、どれだけ周りの人が悲しむかを心配される方が多くいらっしゃいます。人間はほかの動物と違うというお話がありました。それが、誰か人のために生きようとする人間にしかない特徴ではないかと思えます。

石倉 ● それでは、最後に学生の皆さんのメッセージをお願いします。中川 ● 日本人の平均寿命から逆算すると、私に残された時間は1万日程度しかないんですよ。それを思うと、すべてを今に前向きに考えるしかないという気がしますね。今は本当に時間をいとおく感じています。学生の皆さんには十分な時間があります。今の内から何事もチャレシユする気持ちを持つてほしいですね。それと、う一つ、私は常々「親より長生きしてははいけない」と思っています。それは「人のために生きている」ということでもあります。ガンを終末期の患者さんは、自分が死んだとき、どれだけ周りの人が悲しむかを心配される方が多くいらっしゃいます。人間はほかの動物と違うというお話がありました。それが、誰か人のために生きようとする人間にしかない特徴ではないかと思えます。

石倉 ● それでは、最後に学生の皆さんのメッセージをお願いします。中川 ● 日本人の平均寿命から逆算すると、私に残された時間は1万日程度しかないんですよ。それを思うと、すべてを今に前向きに考えるしかないという気がしますね。今は本当に時間をいとおく感じています。学生の皆さんには十分な時間があります。今の内から何事もチャレシユする気持ちを持つてほしいですね。それと、う一つ、私は常々「親より長生きしてははいけない」と思っています。それは「人のために生きている」ということでもあります。ガンを終末期の患者さんは、自分が死んだとき、どれだけ周りの人が悲しむかを心配される方が多くいらっしゃいます。人間はほかの動物と違うというお話がありました。それが、誰か人のために生きようとする人間にしかない特徴ではないかと思えます。





東日本災害ボランティア「福岡大学派遣隊」隊長  
秋山 哲男 教授(理学部学生部委員)

## 参加者が学んだこと

今回の派遣隊に参加した学生の皆さんにとって、最初の学びの場となったのは、現地出発前に実施した事前研修です。現地で100人を超える人間が支援活動をするためには、グループ活動が必要でしたし、そのグループを動かすためのリーダーの育成も必要でした。3か月にわたる事前研修の目的は、グループ内で助け合う気持ちを高めていくこと。授業や就職活動で研修に来られない人も必ず現地に連れていく、グループの中から落ちこぼれる人を出さない。そのために各グループで何ができるのかを考えることが大事なのです。研修の内容についても、学生の皆さんに自分たちで話し合っ決めてもらいました。現地では、指示を待っているのではなく、今何をすべきかを自分で考える力が必要だからです。

現地の光景を自分の目で見て、テレビからは伝わらないにおいを感じる。それはとてもショッキングなことだったに違いありません。実際、初日に現地の方の話を聞いている参加者の表情には、戸惑いが見られました。ショックが大き過ぎて言葉が出ず、茫然とした様子もありました。それでも、初日の夜の反省会やリーダー会議を経て、2日目からは積極的に現地の方に語り掛けていました。それだけでも大きな進歩です。全員が事前研修を通じて成長した部分だと思っています。

また、学生の皆さんは「生きる」ということに対する感動があったと思います。現地で最初の活動を始めようとするときに「まず、黙とうをしませんか」という声が学生側から自然とあがってきました。それが現地の光景を見て、被災者の方の生の声を聞いて、命の在り方やありがたみを感じた何よりの証でしょう。

福岡大学派遣隊のすべての隊員にとって、今回の経験は今後の人生の中できつと大きな財産になると思います。内面的なことだけではなく、実作業から学んだこともあります。例えば、スコップの使い方や、瓦礫を撤去する際の効率的なレールの方法などです。誰でも一度経験すれば分かる簡単なことですが、今の若者世代はその経験をする機会がないから、力の加減やコツが分からないんです。日本に住んでいる以上、自然災害は避けて通れません。そのような災害に見舞われた際、どのように行動すべきかを理解している人間が一人でもいれば、周りの人たちの助けになります。これも立派な財産の一つと言えるでしょう。

私たちは今回の活動を通じて、被災者の皆さんが家族を失い、生活を失い、地域社会が崩壊した中からどう立ち直ろうとしているのかを見てきました。活動中に聞いた被災者の声は、とても力強い「生きよう」という言葉でした。それは「では私たちは、これからどう生きればいいのか」と考えることにつながりました。被災地の大学生との交流で、彼らの「被災地のことを忘れないでほしい」という言葉は、同じ世代である学生の皆さんの心に響いたはずなんです。これからも被災地の状況に常に関心を持ち、自分にできることは何なのかを考え続け、少しでもその思いを周辺につなげて、拡げていくことが大切ではないでしょうか。



### ボランティア活動地区

	第1班	第2班	第3班
8月22日(月)	陸前高田市広田地区	気仙沼市大島地区	石巻市湊地区
8月23日(火)	陸前高田市広田地区	気仙沼市大島地区	石巻市湊地区・大原浜地区
8月24日(水)	陸前高田市広田地区	石巻市北上地区	石巻市湊地区・大原浜地区
8月25日(木)	石巻専修大学との学生交流 南三陸町上山八幡宮境内		

# “生きる” ということ。 この経験はきつと大きな財産になる。

## 東日本災害ボランティア「福岡大学派遣隊」

**事前研修(4回)**

隊員には第1回目の研修から「自分たちで考え行動する自主性」が求められました。

**結団式**

学生代表による決意表明の後、仙台市在住の庄司ご夫妻から被災地の現状をお聞かせしました。

**実践訓練**

炎天下での活動を想定し、グループごとに大学周辺の清掃作業を行いました。

**直前研修**

具体的な行程の発表をはじめ、現地での注意事項などを隊員全員が最終確認しました。

**被災地での活動**

活動ごとに3台のバスに分かれ、瓦礫の除去や削清の清掃などで汗を流しました。

**活動報告会**

隊員が被災地で感じたことを発表するとともに、継続して何ができるかを考えました。

# 私たちは、 忘れない。

「福岡大学派遣隊」の被災地での動き



## 結ばれた「縁」を 大事にしたい

「福岡大学派遣隊」学生代表  
毛井 貴彦 さん  
(理学部応用数学科1年次生)



学生代表として、多くの先輩方がいる中で全体の意見をまとめるのはプレッシャーもありましたし、悩むことも多々ありました。しかし、各グループリーダーからの助言や隊員みんなの支えがあって何とか最後まで務め上げることができました。

私たち学生は熱い気持ち先走って、何を企画するにも「結果」や「成果」を求めようとしていました。しかし、福岡大学が派遣隊を募った目的は「事前研修のグループワーク、そして現地のニーズに沿ったボランティア活動を通して、学生の人間の成長を願ったもの」であり、「全員が無事に帰ってくること」の至上命令も与えられました。学生と大学のパイプ役として、私自身がその根本的なことを見失わないように心掛けた。

現地では、そこにしかない空気感や温度によって、ものすごく感情が揺さぶられました。被災者の方々の悲しみや悔しさを思うと、今でも込み上げてくるものがあります。それは、現地の光景を見た者にしか分からないことかもしれません。

被災者の方々や交流を深めた石巻専修大学の学生の皆さんとの「縁」、学部や学年を越えて集まった派遣隊全員との「縁」を大事にしながら、次の機会のボランティアに参加したり、被災地で体験したことや感じたことを伝えていくことで、東北の復興に向けての長期的な力になりたいと強く感じました。

また、今回のような機会を与えていただいたこと、予定を大きく上回る学生が集まったにもかかわらず希望者全員を派遣していただいたこと、活動すべてにおいて学生の自主性を尊重していただいたことに対して、本当に大学に感謝しています。その厚意に応えるために、被災地の惨状や人間模様を伝えるだけでなく、被災地に行った被災地外の人間が何を感じどういった心情になるのかも伝えていきたいです。それこそが、この震災の記憶を共有し、風化させないことにつながると思っています。

## この体験は、 私自身の原点になる

手塚 祥恵 さん  
(医学部医学科第1学年)



今回のボランティアの募集を知ったのは入学した直後。震災後、「ボランティアに行きたい」と訴える多くの学生の声に大学が応えてくれたことに共感しました。

現地で見えた光景には、本当に言葉が失いました。特に、津波によって壊滅した病院を見た時には、医学部生としてあらためて「医療って何だろう。医者には何ができるんだろう」と考えさせられました。以前から海外の僻地で医療にかかわることが夢だった私にとって、今回の体験は自分自身の原点になると思います。

そして、被災者の方々の話を通して、復興の道筋には医療だけではなく、経済や産業、そして心のケアなど、さまざまな要素が必要だと実感しました。そのような幅広い視点を持つことは、これからの人生に必ず大きな影響があるはずだ。

福岡に戻って街の景色を見た時は、被災地とはまるで違う国のように見えました。同じ日本なのに、被災地にはそれとは違う光景がありました。現地で活動した私たちだからこそ、この震災を風化させないように、参加した104人の絆を大切にしながら、今後も活動を続けたいと思います。

## 伝えていくことが 私たちの義務

土橋 亮太 さん  
(法学部法律学科2年次生)



仙台で海に沿った有料道路をずっと走ったのですが、その道路を挟んで津波の被害を受けた海側と被害を免れた陸側の景色がまるで違うんです。私たちにとって、その光景は本当に衝撃的で、バスの中で涙を流している人もいました。

現地では、私たちに想像もつかない悲しい経験をされているのに、被災者の方々が笑顔で元気に話し掛けてくださったのがとても印象的でした。遠い福岡から来た私たちに、少しでも話かけたい、自分たちの現状を伝えたいという思いがすごく伝わってきました。

今、私にできることは、自分が見てきたこと、聞いてきたことを一人でも多くの人に伝えていくことです。それが義務だと思います。家族、大学のゼミの仲間やアルバイト先の仲間に、自分が撮影した写真を見せながら、被災地の現状を伝えていきたいと思っています。

災害ボランティアに参加したことで、アルバイトに明け暮れていた1年夏の夏休みとは比較にならないほど貴重な夏休みになりました。現地での活動だけでなく、事前研修を含めてリーダーとして学んだことも多く、本当に自分自身が成長できたという実感があります。私たちは「生きている今」を大切にしなければならぬし、その「今」を少しでも被災地のために使っていければと考えています。

## 「発信していく力」を 使ってできること

江藤 俊 さん  
(商学部経営学科4年次生)



1日目に民宿を営んでいた方の話を聞く機会があったのですが、その内容は自分の中で消化しきれないくらいに重いものでした。しかも、内容は裏腹にすこづこ明るく話されるんです。そのエネルギーがどこから出てくるのか、最初はとても不思議に感じましたが、私たちに「震災のことを忘れてほしくない」という思いがあったからこそだと思います。

被災地の方々のコミュニケーションや、毎日の反省会を通じて、参加メンバー全員が自分の中にあるものを発信していく力をつけることができたと感じています。実際に震災を経験していない私たちがすべて代弁できるとは思いませんが、今回の活動を通して身に付けた「発信していく力」を発揮して伝えていくことで、周りの人たちの心にスイッチを入れることはできると信じています。

毎日運くまで作業をして達成感もありましたが、長い復興への道のりを思うと、私たちの活動はほんの小さなことに過ぎません。これからも、今まで以上にボランティアの勉強を重ねて、少しでも被災地に、そして社会全体に貢献できる人間になりたいと思っています。





あなたは、毎日のキャンパスライフをどのように送っていますか？毎月1人の学生にスポットを当て、福岡大学のさまざまなキャンパスライフを紹介しています。



## 国際交流を通して成長する毎日

人文学部ドイツ語学科3年次生 鷺海 大地さん

### PICK UP

履修科目  
ドイツ語作文A/B / テルカステイヨ先生

### ドイツ語の基本文法を駆使して文章を作成

ドイツ語学科に入ってから、1年次、2年次で学んできた基本文法をすべて使って、与えられた課題をドイツ語で文章化していく授業。来日10日目で、昨年から本学でこの科目を担当するカステイヨ先生は、流暢な日本語で話します。

「ドイツ語は動詞を主語に合わせて活用していくなど、英語以上に難しい言語です。ドイツ語を文章化していくには言語のルール以前に、単語力を身に付けることが大切です。この授業は25人の学生が受けていますが、皆さんが苦労しているのはやはり単語を覚えることのようにです。ドイツに行くとドイツの人たちと会話ができ、ドイツというものを深く知れるようになるために、まず単語をしっかりと覚えてほしいです。鷺海さんは「ドイツ語は、文法に日本語とも英語とも異なる言語なので、けっこう苦手な授業で苦労しています」と苦笑い。先生のアドバイスどおりに単語力をアップできれば、文章表現力もさらに向上していくと期待しています。鷺海さんの地道な努力は続きます。



自分の作文を見せよう鷺海さん。



日本語とドイツ語でコミュニケーションを取ります。

### 生活レベルで交流する国際色豊かなキャンパスライフ

人文学部でドイツ語を学んでいる鷺海大地さんは、以前から国際交流に興味があり、本学入学時に自らの住まいとして国際交流会館を選びました。今年の春からは、寮長に選ばれ、世界各国から来る外国人留學生のお世話や、国際交流会館の年間行事の企画立案、運営などに奔走しています。

「ドイツ語にはも英語に比べるとスムーズな日常会話ができるわけではないかもしれませんが、でもまずは『会話をしよう』とトライする気持ちが大事だと思っています。ささまざまな留學生と触れ合うことで私も感情表現が豊かになりましたし、留學生の生活をサポートすることで僕も豊かになったと思います。鷺海さんは、この会館からキャンパスに通っていますが徒歩で約10分という距離なので、昼休みは一度会館に戻って昼食を取ることが多いです。また、週4日天神の飲食店でアルバイトをしていますが、その収入の半分はしっかりと貯金しているとのこと。

「やはりいつかは海外に行きたいですからね。せっかくたくさん外国人の友人ができたので、再会の旅のために貯金も必要です。これから体験した国際交流が『確実に自分の成長につながっている』と話している鷺海さんは、まさに国際色豊かなキャンパスライフを送っています。

### PICK UP

履修科目  
演習1 / 富重 純子先生

### 中央ヨーロッパで生まれた文化の厚みを学ぶゼミ

3年次、4年次の2年間を通して、少人数でドイツ語圏の文化について学ぶゼミ。テーマは「プラハにおけるドイツ文学」。ハブスブルク帝国の重要都市としてドイツ語文化圏の一つの中心であったプラハの文化を学びながら、そこから生まれたドイツ文学を研究します。

「ゲルマン系のドイツ人とスラヴ系のチェコ人、そしてユダヤ人。諸文化の十字路であったプラハでは、文学、映画、音楽などに、他地域にはない独自の特徴が見られます。その文化的な厚みを理解するのがゼミの狙いです。卒論にしても、まずはドイツ語圏の文化の厚みや奥深さに対して関心を持たないと書けないでしょう」と富重先生。

ゼミの内容は、文学のみならずマルクス、ニーチェ、フロイトといった19世紀後半に生まれた思想や哲学的にも本を讀んでレポートを発表するという形ですが、ヨーロッパ独自の文化を吸収できるだけでなく、当時の哲学や思想の流れを含めて幅広い知識を得られることが、このゼミの魅力です」と話す鷺海さん。



哲学を含めた難しいテーマを分かりやすく解説する富重先生。



ゼミは学生の発表が中心。

### PICK UP

国際交流会館  
国際交流棟

### 同じ屋根の下で生活を共にしながら国際交流を図る

国際交流会館は、国際交流棟、合宿研修棟、管理棟からなる福岡大学の厚生施設。外国人留學生と日本人の学生が入居し、同じ屋根の下で生活を共にしながら国際交流を図っています。居住空間としてバストイレが付いた個室があり、ロビーや共同キッチンなど、入居者が集える場所もあります。

「生活レベルで交流できるのが一番の魅力です。歓迎会やスポーツ大会、七隈祭への参加、地域の方々との交流会などいろいろな行事を行っています。

9月には、欧米やアジアから20人の新しい留學生を迎えました。寮長である鷺海さんは「福岡大学で充実した半年間、あるいは1年間を通してほしい」という思いから、積極的に留學生たちと話し掛けました。

「留學生には、文化や言語の違いによるストレスが必ずあります。そのストレスを敏感に感じ取ってあげるために日頃からコミュニケーションを取ることで寮長としての役目と思っています。鷺海さんは、すべての外国人留學生にとって心強い存在なのです。

### 友人の吉村依真さんからの一言



以前、国際交流会館で生活していました。鷺海くんとは同じドイツ語学科ということもあって、よく一緒に勉強していました。鷺海くんは、1年次から誰よりも国際交流会館のことが好きで、どうすれば留學生のためになるかを考えている人だったので、寮長になったのは当然だと思っています。留學生からとても信頼されていますし、特にアジア系の女子学生には人気がありますよ。



9月に入寮した留學生の歓迎パーティの様子。

### 鷺海さんへQ&A

- Q1 鷺海さんが感じる福岡大学の魅力は？  
A. 9学部が一つのキャンパスに集まっているので、たくさんの人と出会えること。キャンパスも広いだけでなく、一つ一つの設備が充実していてきれいな点が大きな魅力です。
- Q2 ドイツ語学科で大変だと思うところは？  
A. ドイツ語は、英語とはまるで違う言語のように思えます。文法についても、単語についてももーから始めなければならぬ点が大変です。
- Q3 大学の魅力、楽しいところは？  
A. 高校までと違って、自由な時間が多いことです。自由になる時間をいかに有効に使うかが大学生活の魅力であり、同時に課題でもあると思います。
- Q4 鷺海さんの将来の夢は？  
A. どのような形でも国際交流にかかわる仕事に就いて、日本のために、そして世界のために貢献できる人間になりたいです。



### 授業がある日の平均的なスケジュール



9月の留學生歓迎会で寮長としてあいさつ。誠実な話し方が信頼につながります。



国際交流棟の鷺海さんの部屋。寮料は30,000円。



真剣な表情でゼミに臨む鷺海さん。



使込まれたドイツ語の教科書。



交流を深めるため学外でバーベキュー大会も開催。



お昼は国際交流棟の食堂に戻って。



友人と組んだバンドではギターを担当。



8月のスポーツ大会では、留學生とサッカーを楽しみました。

# 時は流れて

定期試験

学びの成果が試される「試験」。  
学生の容姿や教室の造りが変わっても、  
静寂の中に漂う独特の緊張感は、  
今も昔も変わることはない。

# 1941

福岡高等商業学校時代の試験風景。  
直前まで勉強する生徒のほとんどが学ラン姿。



# 2011

A棟での試験風景。  
ざわつく廊下とは対比的に、ピンと張りつめた空気が教室中に広がる。

熱い気持ちを胸に  
“命の現場”に向かい続ける



過酷な現場と大学で学んだ日々

火災が起きるといち早く現場へ駆け付ける消防自動車。消防士は20年の森田浩章さんは現在、西消防署で小隊長として消防自動車のハンドルを握っています。

「火災現場にいち早く到着して安全に到着するかももちろん、到着するまでの間に火災現場の状況を把握してベストの位置に消防自動車を停車させる技術が求められます。つまり、消防自動車を運転する者には、火災現場の状況を正確に把握・予測できる知識と経験が必要になってくるわけです。また到着

後は、ポンプにホースをつなぐ、はしご車の作動準備を行うなど、消防自動車周りの一連の業務も担当します。

森田さんは、これまでも救助隊員、放射能テロ対策部隊、防災の啓発活動、業務を担当してきました。中でも救助隊員としての経験が10年で最も長く、その間に人の命と直接向き合う機会が多々あったと言います。

「交通事故や自殺など、悲惨な現場を数多く経験しました。救助隊といっても、実際に命を救える場面ばかりでは

「福岡大学派遣隊」とともに被災地へ

ありませんからね。救助隊員という立場で、そのような現場を経験すると、命のはかなさや大切さを痛感させられます。20kg近いフル装備を身に付け、体力的にも精神的にも極限に達する訓練を繰り返しているのも、すべては火災という過酷な状況の中で人の命を救うという使命と救いたいという思いがあるからです。

また、森田さんは消防局入局後12年が経過した春、「自己研鑽のために」と福岡大学商学部第二部に入学しました。百道にある防災センターで防災の啓発活動や庶務の業務に専念していた頃だそうです。

「防災センターでの仕事をいったん夕方5時で切り上げさせてもらって、バイクで福岡大学に行き講義を受けて、また戻って仕事をするという日々でした」と、当時を振り返る森田さん。

「仕事と学業の両立は大変でしたが、大学の勉強が当時の業務に直結している部分が多くて、ずいぶん助かりました。リーダーシップ論は消防隊員として当然必要なことでしたし、経営学は防災センターをいかに活性化するかを考えると役に立ちました。また、社会学の講義では仕事の経験を生かして自説論に関するレポートを書くことができた。自分の仕事と大学での勉強が相乗効果を生み出すのは、商学部第二部ならではの強みだと思います。」

森田さんは、東日本災害ボランティア「福岡大学派遣隊」のアドバイザーとして、事前研修からずっと学生たちの活動を見守ってきました。それまでも、全国の消防隊員の有志や福岡市が派遣したボランティアの一員として4度被災地を訪れていた経験があるので、「福岡大学派遣隊」にはよりの確かなアドバイスを送ってもらうことができたのです。

「被災地のことを知っている人間として、学生の皆さんには事前研修の時から厳しいことを言いましたし、意見の衝突もありました。彼らは、現地で活動したわずかな間に、たくさんの衝撃を受け、多くのものを吸収し、人間として大きく成長したと思います。そして、私にとっても学ぶべきものがたくさんありました。それは、彼ら被災地で見せてくれた元気や若さ、そしてチームワークの素晴らしさです。」

森田さんが「福岡大学派遣隊」の活動で最も印象に残ったのは、福岡に帰る日の朝のことだと言います。現地入りした日の夜、南三陸町にある神社の宮司さんから「被災した家屋の片付けを手伝ってほしい」という急な要請が入り、それが当初の予定にはなく、帰福するスケジュールがず



消防士を目指す学生に詳しく「人と人のつながりや人の温もりが大切になれば、きっと熱い気持ちを持てるようになる」とアドバイス。



有給休暇を取って「福岡大学派遣隊」のアドバイザーとして活動。

でに決まっているため時間もありません。それでも学生から「行きたい」という声が上がると、何とか時間のやりくりをして1時間だけ時間をとったそうです。

「それまで3チームに分かれて活動していましたが、この日は全員が一方所で作業しました。約100人の人間が1時間という限られた時間で作業すると、かえって効率が悪くなったりが人が出たりするものでも、自発的に適材適所に散らばり、本当に見事なチームワークで片付けてくれました。これまで数多くのボランティア活動をしてきましたが、あれほど短時間に若い力が結集された活動はありませんでした。」

実は、突然の要請の裏には、毎年9月に神社で開催してきた地元の方々の祭を途絶えさせたくないという地元の方々の願いがありました。

「みんなのおかげで、祭りは無事に行われたと思います。それはきつと復興への大きな力とならずです。」

今回のような大震災に限らず、火災や水害、台風などの災害はいつとも起こり得ること。幾多の災害現場で人の命と向き合ってきた森田さんは、学生の皆さんに次のように語ってくれました。

「一番大切なことは、身近な災害に関心を持つことです。どのようにして起こったのか、どのような被害が出たのか、助かった人はどのように助かったのか。それから関心を持つことが、災害時に人の命を助ける、あるいは自分の命を守る第一歩になります。」

災害に関心を持つことは、日頃の防災にもつながるはず。森田さんが災害現場へ向かう消防自動車のハンドルを握らずに済む日が一日でも増えるように、小さな災害にも関心を寄せようようにしよう。



火災現場に出動する際のフル装備。重さは20kgにもなりますが「この状態で全力疾走できないと消火活動はできません」。



消防自動車のポンプにホースをつなぐ作業も森田さんの重要な役目の一つ。



外で身体を動かす方が好きだというデスクワーク中の森田さん。



より早く現場に到着できるように、助手席には専用のナビゲーションシステムを搭載。

どの職業に就きたいのか、考えるきっかけは身近なところにある。

## 住み慣れた北九州市で 環境の仕事をしたかった

小学校4年生の頃から北九州市若松区で過ごしてきたという遠藤紀子さん。福岡大学にも北九州市の自宅から2時間かけて通学し、卒業論文も地元で書いた。環境について書き上げたという北九州っ子です。

もともと環境について興味を持っていたので、大学生の時は多くの環境関係の講演やシンポジウムに参加したそうです。

「子どもの頃から、社会の授業で北九州市のことをずっと教えられてきました。公害問題への取り組みや環境産業をいかに発展させてきたかを学んできたので、北九州市の環境づくりはすごいんだ」と意識が自然と身に付いていました。環境づくりに熱心な自分の街で、関心のある環境に関わる仕事ができるのであればこんな幸せなことはないと思いついた北九州市の職員になりました。

と考えるようになりました。

遠藤さんが志望した職種の化学・農芸化学は技術分野の職員。専門科目対策のために、空き時間は図書館に通い、調べて化学関係の勉強を続けたそうです。

「北九州市職員の採用試験で最初の筆記試験が行われたのが6月。直前には専門外の化学をとにかく必死で勉強しました。」

「子ども自身が子どもの頃に北九州市の環境について学んだことが、今の仕事につながっているように、街の環境づくりへの取り組みは、確実に後の世代へバトンタッチされています。」

遠藤さん自身が子どもの頃に北九州市の環境について学んだことが、今の仕事につながっているように、街の環境づくりへの取り組みは、確実に後の世代へバトンタッチされています。



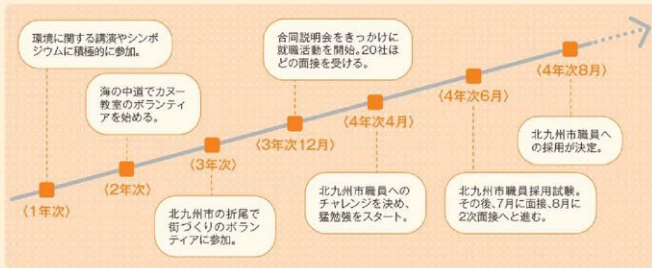
北九州市保健所  
理学部地球園科学科  
2008年卒業  
遠藤 紀子さん

## 並々ならぬ強い気持ちで、内定に近づく

北九州市職員への道のほかに、環境や街に関係する企業の入社試験をたくさん受けたと言います。

「最初に受けた民間企業からはすぐに内定をいただきました。でも、その後に入社試験は場数を踏むことが大事と考えていました。もちろんうまくいかなかったことも多く、落ち込むこともありましたが、そこで反省点を見つけてあげることが大切。失敗をしてもまた起きようという気持ちで、それを繰り返すことにより力がつくと思います。」

### 就職サクセス・チャート



何事にも恐れずチャレンジする。それを繰り返した人には力がつく。

## 知らない世界に 飛び込む好奇心が大事

「融資の担当になって、地元の社長さんや経営者の方とお話しをする機会が多いので、話作りがとて大変です」と語る久保明子さん。とはいえ、学生時代にはアパレル関係、飲食店、コンビニさらには倉庫での力仕事まで多彩なアルバイトの経験を積み、話題にはたくさん引き出しを持ち合わせています。

「学生時代のアルバイトについては、二通りあると思います。一つは同じ仕事を長く続けるタイプと、もう一つはいろいろな仕事にチャレンジするタイプ。私は知らない世界に飛び込むのが好きなので、幅広く組織やコミュニティの中で、幅広く経験を積みました。旅行が好きだったので、短期間のアルバイトで旅行代を貯めるという目的もありました。」

そんな性格もあって、就職活動でも業種を絞ることなく、さまざまな企業にチャレンジしたそうです。

「希望は地元で働きたいというところ。入社試験は場数を踏むことが大事と考えていました。もちろんうまくいかなかったことも多く、落ち込むこともありましたが、そこで反省点を見つけてあげることが大切。失敗をしてもまた起きようという気持ちで、それを繰り返すことにより力がつくと思います。」

就職活動で失敗して大泣きし、そして



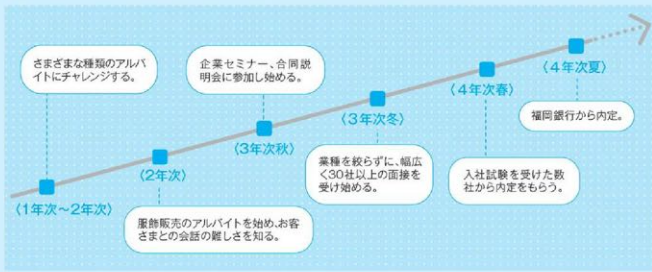
株式会社福岡銀行  
商学部商学科  
2008年卒業  
久保 明子さん

## 大学での勉強は 社会で必ず役に立つ

アパレル、金融、食品メーカーなど、幅広い業種にチャレンジした久保さんですが、好きな旅行関連の企業はあえて選択から外したそうです。

「旅行関係の企業に勤める知人に相談したところ、毎日になってしまいうる旅行の毎日が面白くないと助言されました。好きなことを仕事にすることは、良い面も悪い面もあることを知っておくことが大事だと思います。」

### 就職サクセス・チャート



### 就活アドバイス

中小企業にも魅力は豊富 目に向けてみてください

仕事で中小企業の方々にお会いする機会がありますが、地にも優秀で素晴らしい中小企業がたくさんあります。大企業に入社して組織を学ぶのも一つの選択ですが、本心からやりたいことに対しては、できる限りアンテナを広げて、中小企業に目を向けるのも一つだと思います。

商業高校から本学商学部に進んだ久保さんにとって、銀行の仕事はまさに「学校で学んできたことすべて」だと言います。

「指定校推薦で福岡大学に進学したので、高校の後輩たちのためにも頑張ろうと、まじめに勉強してきましたつもりで、エクスプレッションセンターで販売士や簿記の資格も取得しました。しかし、いざ銀行の仕事をしてみると勉強してあげばよかったと少し反省もしています。」

入社してから業務上必要となる資格を取るために勉強が続いている久保さん。知らない世界に飛び込む好奇心がある限り、久保さんのチャレンジは続いています。

就職・進路支援センターでは、学生の皆さんにさまざまな支援行事を開催しています。積極的に参加してください。

## 10月~12月の行事予定

### 【全学年対象】

- 11月  
・卒業生との就職懇談会

### 【3年次生・大学院1年次生対象】

- 10月  
・業界・企業研究セミナー  
・自己表現対策講座  
・学生アドバイザー何でも相談会

- 11月  
・面接対策セミナー  
・就職ガイダンス「面接ガイダンス」  
・就職活動モチベーションアップセミナー

- 12月  
・学生アドバイザーによる個別相談会  
・採用試験対策プログラム  
・第1回集団面接編(全3回)  
・グループディスカッション編

### 【4年次生・大学院2年次生対象】

- 10月~12月  
・学内合同企業セミナー(1~2回の開催予定)

就職・進路支援センターでは、あらゆる就職・進路に関する相談に、専任のスタッフをはじめキャリアカウンセラーや進路相談員(就職アドバイザー)が応じています。

## 支援行事

就職・進路に関する支援事業の日程など詳細については、FUIポータルや学内掲示、就職・進路支援センターのウェブサイトを確認してください。



スポーツ科学部  
**楢垣 靖樹 教授**  
 生活習慣病予防、介護予防、認知症予防のための運動・身体活動に関する実験研究および分子疫学研究を進めている。専門は運動生理学。

## 運動を考える [前編]

大学生生活を、より健康に過ごすために、普段の健康について考えていく「カラダのカガク」。あなたはどれだけカラダを動かしていますか？今回は、スポーツ科学部の楢垣教授による「運動」についてのお話を2号にわたってお届けします。

# カラダのカガク

健康を科学的に考える。



骨の弱体化を防ぐためです。現に、太ってよく歩く人ほど、足の骨にかかる負荷が大きいので骨は丈夫だとわかれています。つまり、20代のうちにカルシウムやタンパク質をしっかり摂って、きちんと運動する骨に刺激を与えて強化することが大切なのです。「食べない、動かない」という習慣は、将来の自分の骨にとって最悪の結果をもたらすということ覚えておいてください。

骨の弱体化を防ぐためです。現に、太ってよく歩く人ほど、足の骨にかかる負荷が大きいので骨は丈夫だとわかれています。つまり、20代のうちにカルシウムやタンパク質をしっかり摂って、きちんと運動する骨に刺激を与えて強化することが大切なのです。「食べない、動かない」という習慣は、将来の自分の骨にとって最悪の結果をもたらすということ覚えておいてください。

骨の弱体化を防ぐためです。現に、太ってよく歩く人ほど、足の骨にかかる負荷が大きいので骨は丈夫だとわかれています。つまり、20代のうちにカルシウムやタンパク質をしっかり摂って、きちんと運動する骨に刺激を与えて強化することが大切なのです。「食べない、動かない」という習慣は、将来の自分の骨にとって最悪の結果をもたらすということ覚えておいてください。

### 30年後の自分のために

「もっと動いてもっと食べよう」

骨の弱体化を防ぐためです。現に、太ってよく歩く人ほど、足の骨にかかる負荷が大きいので骨は丈夫だとわかれています。つまり、20代のうちにカルシウムやタンパク質をしっかり摂って、きちんと運動する骨に刺激を与えて強化することが大切なのです。「食べない、動かない」という習慣は、将来の自分の骨にとって最悪の結果をもたらすということ覚えておいてください。

骨の弱体化を防ぐためです。現に、太ってよく歩く人ほど、足の骨にかかる負荷が大きいので骨は丈夫だとわかれています。つまり、20代のうちにカルシウムやタンパク質をしっかり摂って、きちんと運動する骨に刺激を与えて強化することが大切なのです。「食べない、動かない」という習慣は、将来の自分の骨にとって最悪の結果をもたらすということ覚えておいてください。

骨の弱体化を防ぐためです。現に、太ってよく歩く人ほど、足の骨にかかる負荷が大きいので骨は丈夫だとわかれています。つまり、20代のうちにカルシウムやタンパク質をしっかり摂って、きちんと運動する骨に刺激を与えて強化することが大切なのです。「食べない、動かない」という習慣は、将来の自分の骨にとって最悪の結果をもたらすということ覚えておいてください。

### 筋肉をつけて太らない身体に

「リバウンドしない身体づくり」

骨の弱体化を防ぐためです。現に、太ってよく歩く人ほど、足の骨にかかる負荷が大きいので骨は丈夫だとわかれています。つまり、20代のうちにカルシウムやタンパク質をしっかり摂って、きちんと運動する骨に刺激を与えて強化することが大切なのです。「食べない、動かない」という習慣は、将来の自分の骨にとって最悪の結果をもたらすということ覚えておいてください。

骨の弱体化を防ぐためです。現に、太ってよく歩く人ほど、足の骨にかかる負荷が大きいので骨は丈夫だとわかれています。つまり、20代のうちにカルシウムやタンパク質をしっかり摂って、きちんと運動する骨に刺激を与えて強化することが大切なのです。「食べない、動かない」という習慣は、将来の自分の骨にとって最悪の結果をもたらすということ覚えておいてください。

骨の弱体化を防ぐためです。現に、太ってよく歩く人ほど、足の骨にかかる負荷が大きいので骨は丈夫だとわかれています。つまり、20代のうちにカルシウムやタンパク質をしっかり摂って、きちんと運動する骨に刺激を与えて強化することが大切なのです。「食べない、動かない」という習慣は、将来の自分の骨にとって最悪の結果をもたらすということ覚えておいてください。



血液型の検査結果を示すカード。各種抗体の反応の出力によって判断。

# 知っていますか？

## 「血液型」

凡庸なA型、おらかなO型などなど、血液型を何かと話題にする日本人。でも、そもそも血液型って何でしょう？  
 福岡大学病院輸血部の熊川みどり先生にお聞きします。

**欧米人のほとんどが自分の血液型を知らない**  
 一般的に、血液型は赤血球の違いによってA型・O型・B型・AB型に分類されますが、その分類方法はABO血液型と呼ばれます。さらに、白血球もH1A型と呼ばれる型の違いがあるので、血液型は細かく見ると、数万通りもあると考えられています。昔から宗教的にも「血液には力がある」と考えられていて、はるか昔のエジプトでは羊の血を人に輸血したという話があります。それが中世になって、人から人の輸血になっていくのですが、うまくいくときと失敗するときがあった。そこで、血液には「毒」が含まれているのではないかと考えられるようになった。1900年にオーストリアのカーラント・スタイナーという医学者が血液型を発見するわけですね。ちょっと難しい話をするので、「含む」「含む」というのは、血液内にある抗原と抗体の組み合わせによるもので、A型・B型・O型の血液を輸血すると、O型の人を持つ抗体が輸血されたA型の赤血球を壊してしまう、悪化死亡することもあります。逆にO型の血液は、どの血液型の人にも輸血しても大きな影響はありません。では、A型の人への血液型はO型になるのかというところは有り得ません。赤血球は毎日作られ、その寿命は約120日です。つまり体の赤血球はほぼ120日ですべて入れ替わるので、A型の人ではやはりA型のままなのです。

### 早分かりコラム

#### 成分献血のお願い

昨年、福岡大学は献血者数が全国一となって厚生労働大臣賞を受賞しました。そこで、本学の皆さんにお願いしたいのが、血小板を採取するための成分献血です。血を止める役割を果たす血小板は、心臓外科の手術や白血病の患者さんにとっては欠かせないもので、常に不足しがちな状態です。成分献血は、成分の採取に時間がかかること、特定の献血ルームでしか実施できないことなど、不便な点もあります。しかし、献血への理解が深い本学の皆さんだからこそ、たくさんのご協力をいただけるものと願っています。

**福岡市内で成分献血ができる場所**

- 献血ルーム ハッピークロス イムズ(天神・イムズ8階)
- 献血ルーム キャナルシティ(キャナルシティビジネスセンタービル1階)
- 献血ルーム おつし博多(JR博多駅横 博多バスターミナル8階)

**必要献血者延べ人数のシミュレーション**

2027年に必要献血者延べ人数が最大となる約549万人

2027年には約101万人の献血者延べ人数が不足するという推計になる

### 先生から一言

福岡大学病院輸血部 部長 熊川みどり 准教授

血液型を通して血液全般に興味を持ってもらい、それが献血につながっていけばいいと思います。今、献血を支えているのは30代から40代の方々。医療現場で輸血の頻度が上がっているのに対して、献血の量は減っています。学生の皆さんのさらなる献血へのご協力をお願いします。

8月6日(土)にオープンキャンパスを開催。猛暑の中、11,332人が来学しました。



1. 在学生スタッフ(ガイド)が案内役として大活躍。
2. キャンパスは、さまざまな種類の制服姿でいっぱい。
3. 交響楽団が60周年記念曲(ヘリオスプラザ)で生演奏。
4. 模擬講義で高校の授業との違いを感じる高校生。
5. ネーティブの先生との会話を胸を躍らす高校生。
6. 学科の魅力や伝えよう、工夫を凝らした実験装置で説明する在学生。
- 7.看護学科で人体模型を使った心臓マッサージ。



学生スタッフの声

福岡大学に入学して5年半。この間に本学がどう変化して、何が受け継がれてきたのか、また本学で学ぶ楽しさを伝えたくて、今回スタッフとして参加しました。



薬学部薬学科 6年次生 竹田 史織さん

何より、私自身がってオープンキャンパスに参加して福岡大学に進学することを決意しました。厳しい受験勉強を乗り越えられたのも、オープンキャンパスに参加して「入学したい」という強い気持ちを持てたからだと思います。今日出会った多くの高校生に本学のさまざまな魅力が伝わっていたらうれしいです。



過去の入試問題集を配布。



お昼は学食で「福大の味」を堪能。



ヘリオスプラザ前と医学部、スポーツ科学部を結ぶシャトルバスを運行。



工学部でのロボットサッカーを興味津々に見る高校生。



震度7を体験できる「振動体験車」。



スポーツ科学部での全身を使ったストレッチ体験。

絆 エッセイ

厳しくも温かく  
学生の皆さんの成長を  
見守ってきたい。



学生課 井手 加奈さん

学生課は、学友会活動やクラブ活動と密接に関係するので、学生の皆さんにはとても身近な存在だと思います。また、学生の皆さんの悩みや困ったことに対して、職員と一緒に解決していく「総合的相談窓口」でもあります。

まず皆さんにお伝えしたいことは、何か間違えたら一人で考え込まずに、学生課に来てほしいということです。特に女子学生の場合には、どうしても男子職員に話しかけにくい相談があると思います。そのときは、真つ先に私を見つけて、遠慮せずに声を掛けてください。同じ女性として精一杯力になりたいと思います。

私がいつも心掛けているのは、学生の皆さんと真摯に接することです。私の大学時代と比べると二部ですが、今の学生には少し幼い部分が残っているように感じます。例えば、締め切りが無断で遅れたり、報告を忘れたり。社会の基本的なルールを守っていないところが少し残念ですね。そのときは、「もうささい」と思われるかもしれませんが、きちんと注意をして、その

理由まで説明するようにしています。普段は優しく、時には厳しく。そう接しているながらも、いつしか成長した学生の皆さんの姿を見ると自然とうれしくなります。学生課に勤めて10年。この間に私も母親となり、学生の皆さんを見る目に少し母親目線が加わったように思います。こうしてもほっとけない」といふ熱が入ってしまう自分がいるんです。

最後に、大学4年間ないし6年間は、あつという間です。勉強はもちろん、課外活動に友人との交流に、そして恋愛に、何事にも思い切り取り組んでほしいと思います。輝く大学生活になるよう見守っています。



女子学生にとって心強い存在

来てみて 話して ところの整理

ヒューマンディベロップメントセンター (HDセンター:学生相談室) のご案内

ヒューマンディベロップメントセンターでは、カウンセラーが皆さんからの相談に応じています。

例えば...

- 何となくだるくてやる気が起きない、授業などに行くのがおっくう
- よく眠れない、または眠り過ぎる
- 友達との会話についていけない、何の話をしているのか分からない
- 人間関係がうまくいかない、キャンパスでの居心地が悪い
- 勉強が思うように進まない

など、毎日さまざまな相談に学生さんが訪れます。

どんな相談でも大丈夫です。  
一人で悩まずに、一度HDセンターに来てみませんか?

秘密は守りますので、安心して相談してください。

相談時間

月・水・金 9:30~16:00  
火・木 9:30~18:40

場所

学生部事務室棟3階

(1階に学生課がある建物)

本学学生のごとであれば、ご家族・教職員の皆さまからのご相談もお受けしています。



お知らせ

後期授業期間、下記の企画を実施しています。  
どなたでも参加できるので、関心のある人は気軽に問い合わせてください。

ランチタイムを一緒に

HDセンターで一緒にランチタイムを過ごしませんか?  
毎週月曜日 12:00~13:00 (担当カウンセラー:廣宮 公子)

対人関係が苦手なあなたへ

授業やサークル、アルバイト、面接などの社会的場面が苦手な方にお勧めします。  
毎週木曜日 16:20~17:20 (担当カウンセラー:廣宮 公子)

※初めての参加の場合には、事前にお問い合わせください。

相談などは  
無料・予約制

HDセンターのウェブサイト  
<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu816/home1/hd1.htm>  
もご覧ください。

ご予約  
お問い合わせ **092-871-6631** (代) (内線2630)  
※電話は平日の16時30分までお願いします



## 平成23年度 父母懇談会を本学と全国7会場で開催

6月25日(土)と26日(日)の2日間、福岡大学七隈キャンパスで平成23年度父母懇談会を開催し、延べ2,310人のご父母が出席されました。

教育・研究・医療や社会貢献など本学の現状をご父母の皆さまにご報告し理解を深めていただくために、文系学部はA棟をメイン会場に、理系の工学部、医学部看護学科、薬学部、スポーツ科学部では施設・設備等の見学も兼ね各学部の建物内で開催。

学長の挨拶、学部長や教授陣による説明をはじめ、個別相談では、学業成績、授業の出席状況や就職・進路支援状況についての報告・相談を実施。学生食堂での食事も体験していただきました。

また、佐賀、松山、広島、東京、那覇、宮崎、熊本の各地でも順次開催し、延べ732人のご父母が出席されました。各会場では、本学同様の説明会や個別相談のほか、本学同窓会「有信会」の地域支部の代表から、卒業生の活躍や地元での就職状況についての説明も行いました。

各会場でお願したアンケートでは、本学および父母懇談会に対する多数のご意見、ご要望をいただきました。主なものは、次のとおりです。



挨拶をする衛藤卓也学長

- ゼミの先生や学部の先生と個別相談ができて良かった。親としてどこにポイントを置いて子どもと接すればよいか明確になった。
- 子どもが「福大っていい大学よ。ここへ来てよかったと思う」と言っていたのが、父母懇談会に参加してよく分かりました。
- 就職活動の流れや就職に対する意識などの説明を受け、今後子どもどのように就職活動に取り組みればよいか、そのきっかけが見つかりました。
- 個別相談では、子どもに聞いても分からなかった気になるところが聞け、的確に教えていただきました。



学生食堂では「おいしいね」「バランスがいいね」という声。



個別相談では教授陣が丁寧に説明。



就職・進路に関する説明を真剣に聴き入るご父母。

## 福岡大学への寄付者芳名一覧

本学に対し多大なるご寄付を賜り、深く感謝いたします。ここに、平成23年1月1日から6月30日の間にご寄付いただいた方々の芳名を掲載させていただきます。

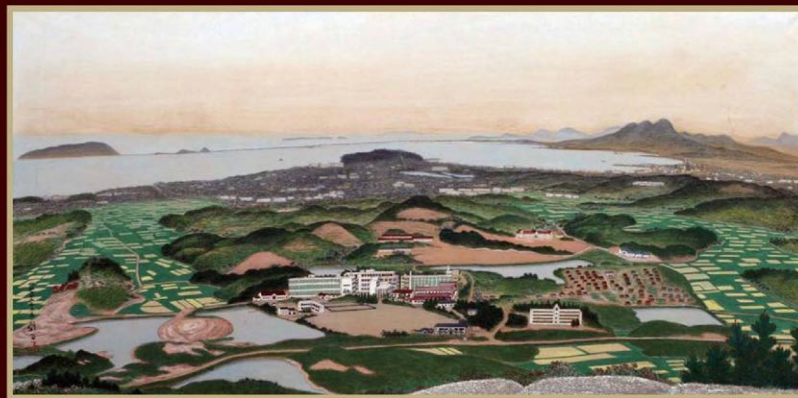
- 福岡大学名誉教授 故 杉原 剛介 様
- 130,453,251円  
福岡大学父母後援会 様
- 49,834,166円  
福岡大学附属大濠高等学校後援会 様
- 16,500,000円  
福岡大学附属若葉高等学校後援会 様
- 6,629,696円  
福岡大学附属大濠中学校保護者会 様
- 1,000,000円  
医療法人春成会 樋口病院  
理事長 松村 順 様
- 653,544円  
福岡大学附属大濠高等学校第58回卒業生 様
- 525,000円  
ココマーケティング株式会社 様
- 200,000円  
医療法人 日新会 稲永病院  
理事長 稲永 國勝 様
- 109,916円  
重田 光康 様
- 100,000円  
福岡大学附属若葉高等学校若葉会 様
- 10,000円  
高山 潔 様
- 10,000円  
高山 理恵子 様
- テレビスタンド 2台  
福岡大学スポーツ科学部 平成22年度卒業生一同 様
- システムキッチン 1台  
福岡大学医学部小児科学教室一同 様
- 美術品(陶芸)「那国悠幻-II」佐藤好昭作  
福岡東洋陶磁美術館館長 溝口 虎彦 様
- 中高一貫コース卒業生名簿欄、展示ケース  
平成22年度福岡大学附属大濠中学校卒業生一同 様
- 講堂用液晶プロジェクタおよびDVDプレーヤー一式、  
ホシザキコールドウォーターおよび  
足踏み式ウォータークーラー各1台  
平成22年度福岡大学附属若葉高等学校  
卒業生一同 様

# ARCHIVE

## 一甦る記憶

この学び舎には、歴史があり、伝統がある。

この一枚は、今のあなたにとって単なる「昔の絵画」でも、  
いつか、あなたの「誇り」となるだろう。



### 「キャンパスは美術館」

昭和31年4月、それまで単科大学であった福岡商科大学は総合大学の始まりとなる法経学部を新設し福岡大学に改称しました。ちやうど神武景氣ともいわれ、戦後10年にして日本経済は好景氣の波に乗り社会全体が急成長します。福岡大学も昭和34年に、法経学部が分離独立して法学部と経済学部を増設。翌35年には本学最初の理系学部である薬学部、37年には工学部を増設し、大きく成長していきました。

この「福岡大学全景」は、ちやうどその頃のもので、35年5月に描かれたと記してあります。描いたのは横尾龍芳。横尾は明治28年、築上部椎田町の生まれで、独学で絵画を学び、後に京都の狩野派で修業。この絵は横尾65歳のときの作品です。絵の中央に多くの池に囲まれた福岡大学キャンパスが描かれ、遠くに志賀島、右手に立花山、中央上部に西公園が見えます。六本松から本学まで通じる道(通称「別府街道」)は未舗装の石ころだらけで、下駄破りの丘といわれていました。

福岡大学のキャンパス内には、たくさんのおもしろい作品があります。文系センター1棟1階ロビーには、本学を総合大学に導いた今村有元総長の胸像(小田部泰久、昭和59年)、文系センター1棟5階国際会議室前には「界外呼の国」(野見山晴治、昭和59年)、「第二記念堂正面には「青年の像」(緒方敏雄、昭和50年)など。また、学生課前や有明会館西側、学術会館玄関には、美術部制作のモニュメントや壁画など。文化の秋、芸術の秋、皆さん、ちやうど立ち止まって芸術鑑賞をしてみてください。

## 平成23年度福岡大学給費奨学生証の授与式を開催

7月4日(月)、60周年記念館(ヘリオスプラザ)ヘリオスホールで、平成23年度福岡大学給費奨学生証の授与式を行いました。これは「人物・学業成績ともに優秀でありながら、経済的な理由で学業継続に支障を来す恐れのある学生を援助し、優れた人材育成を目的とする」もので、今回は204人に返還義務のない奨学金(文系学部30万円、商学部第二部15万円、理系学部50万円)を給付しました。



## 平成23年度福岡大学特待生表彰式を開催

6月11日(土)、831教室で平成23年度福岡大学特待生の表彰式を行いました。学業成績ならびに品行の特に優秀な学生として選ばれた206人を表彰し、奨学金(30万円、商学部第二部は15万円)を授与しました。表彰式には特待生のご父母も参加され、式後には懇談会が開催されました。特待生に選ばれた学生の皆さん、おめでとうございます。



## 財団法人日本サッカー協会と相互協力協定を締結

6月13日(月)、福岡大学と財団法人日本サッカー協会(会長:小倉純二)は、地域社会への貢献と次世代の人材育成で協力することを目的に、相互協力協定を締結しました。

日本サッカー協会が小学生向けに行っている学習支援活動「JFAこころのプロジェクト」を、本学が持つ福岡県内のネットワークを活用して紹介するとともに、福岡地域における運営の基盤的役割を果たすため、今回全国で初めて「JFAこころのプロジェクト(ユメセン)九州地区モデル指定校」として本学が支援団体に認定されました。両者が有する人的・知的資源、情報、機能を融合させ、地域社会への貢献を目指します。また、スポーツ科学部では、協定の一環として年5回、外部講師(五輪メダリスト等)を招いての特別講義を行い、国際的視野で活動できる人材育成を目指します。

締結の記者会見には川淵三郎名誉会長が出席。9社の報道機関が取材を行い、テレビや新聞などで大きく取り上げられました。



記者会見場で固い握手を交わす衛藤学長(左)と川淵名誉会長

## 九重町と地域連携協定を締結

7月21日(木)、福岡大学は大部分九重町(町長:坂本和昭)との間で、それぞれが保有する知的・人的資源を有機的に活用し、活力ある地域社会の発展および人材の育成に寄与するため、「地域連携協定」を締結しました。

調印式は、九重町にある本学の「やまなみ荘」で行われ、今後、相互の発展と地域社会の発展に資するため、人材育成、教育・研究、文化、産業、まちづくり、健康・医療・福祉、自然・環境・エネルギーなどの分野において、連携し協力していくこととなります。

なお、今年も8月と9月の4日間、スポーツ科学部の学生と教職員延べ400人が、くじゅう連山の平治岳周辺で環境保全活動に取り組みました。



調印式での衛藤学長(右)と坂本町長

## 平成23年度「花嶋環境基金」の奨学金を授与

花嶋正孝名誉教授(工学部土木工学科、現社会デザイン工学科)の在職中の研究資金などを基に設立された「花嶋環境基金」の平成23年度奨学生、萩尾愛子さん(社会デザイン工学科3年次生)、内野貴博さん(建設工学専攻2年次生)、黒木賢一さん(建設工学専攻2年次生)、丸田浩さん(資源循環・環境工学専攻2年次生)、小林亮さん(資源循環・環境工学専攻1年次生)、坂田明光さん(資源循環・環境工学専攻1年次生)の6人に対し、7月20日(水)、工学部長室で西嶋喜代人工学部長が奨学金(30万円)を授与しました。栄誉に輝いた受賞者の皆さんのさらなる励励に期待します。



## 文部科学省「女性研究者研究活動支援事業」に採択される

福岡大学は、文部科学省「平成23年度女性研究者研究活動支援事業」に採択されました。これは、女性研究者が能力を最大限に発揮できるよう、出産や子育てなどのライフイベントと研究を両立するための環境整備を行う取り組みを推進していく事業で、九州の私立大学としては初の選定となります。

平成25年度までの3年間、ライフイベント期間中の女性研究者の研究活動支援、次世代女性研究者の育成などを軸として事業を展開していきます。

## 「九経連・先導的ICT人材育成施策提携に関する協定」を締結

7月14日(木)、福岡大学を含む3大学(本学・九州産業大学・福岡工業大学)と社団法人九州経済連合会は、「平成23年度九経連・先導的ICT人材育成施策提携に関する協定」を締結しました。

これは、即戦力となる先導的ICT人材育成を行う取り組みであり、九州における高度な知識・技術を持つ先導的ICT人材の育成および活用に積極的に取り組み、さらに、産学官連携・交流により九州経済の発展に寄与することを目的としています。

## 「準好気性埋立構造(福岡方式)」が国連から認定

7月15日(金)、モロッコで開催された第62回国連ODM(クリーン開発メカニズム)理事会において、福岡大学と福岡市が、1975年に共同で開発した「準好気性埋立構造(福岡方式)」による既存埋立場の改善がカーボンクレジットを認める新たな手法」として認定されました。

「準好気性埋立構造(福岡方式)」は、廃棄物の埋立場で発生するメタンガスの排出や廃棄物による浸出水の汚染を抑制する効果があります。今回の認定は、福岡発の埋立技術が、環境保全以外の面で地球温暖化対策として有効であると世界に認められたこととなります。

環境保全センター長の松藤康司工学部教授は、「この福岡方式は、私の恩師でもある花嶋正孝名誉教授が福岡市と一緒に開発しました。今の産学官連携のはりして、費用が安価で済むというメリットから、途上国でも取り入れやすい。食物自給力が低い日本にとって、途上国を含めた多くの食料輸入先の環境が改善されることは、結局私たち自身そして日本を救うことになる」と語ります。

この認定により、「準好気性埋立構造(福岡方式)」はカーボンクレジットを生み出す技術として世界から注目され、今後さらに技術協力の要請が増加することが予想されます。本学と福岡市は研修生の受け入れや人材育成、そして人材派遣などニーズに応じた国際協力を推進することで、温暖化対策の分野でも地球環境保全に貢献していきます。



1988年、マレーシアに技術移転され、その実績に世界が注目。

## 第9回「今を生きる教養講演会」を開催



講演後、学生を代表して本学登山部の大隅芳幸さんが感謝の花束を贈りました。

5月31日(火)831教室で福大生ステップアッププログラム(FSP)の一環として、第9回「今を生きる教養講演会」を開催しました。

講師は登山家の田部井淳子氏。「世界の山々をめざして一あきらめず夢を実現させる」を演題に、現在71歳という年齢を感じさせないエネルギッシュな語りで会場を魅了しました。

講演の内容は、ハイキングを通しての支援活動の話、女性として世界初となった世界7大陸最高峰登頂の体験、さらに、日常生活を楽しむためにチャンネルにチャレンジし、故郷福島でリサイクルを開催したことなど。登山だけに終わられることなく「お金や物ではなく、毎日の生活の積み重ねで満足した自分史を残せるようにしたい」という考えを、ユーモアを交えながらお話しいただきました。

また、今回はNHK福岡放送局との共催「NHK大学セミナー」として開催したこともあり、学生や教職員に迎え市民の方々も多数参加されました。

詳細はこちら [福大生ステップアッププログラム\(FSP\)の詳細については、個別のウェブサイトをご覧ください。](#)

福大生  検索

## 「高齢者健康教室」を開催

8月17日(水)、福岡市立七隈老人いこの家で「福岡大学医学部看護学科メンタルサポート研究会」(本看護学科生12人)および七隈校区区民委員による「高齢者健康教室」を開催しました。

これは、「高齢者に起こりやすい疾患やその予防方法を知ってもらうこと」「本イベントを通して高齢者同士の交流が始まり、高齢者特有の孤独や不安などを少しでも緩和できるようにすること」を目的に年2回程度開催しています。

今回は七隈校区の方々14人を対象に、「熱中症についての健康教育」と題して、学生たちが日頃の勉強で得た知識を、オリジナル劇やクイズ形式で分かりやすく紹介しました。



手軽にできる運動を実践。

充実したひと時の参加者たち。





# 平成22年度 学校法人福岡大学収支決算について

- ① 消費収支においては、65億円の消費支出超過となりました。
- ② キャンパス整備事業としての第2号基本金組入額15億円を含み、基本金組入額合計が128億円を計上しました。

■貸借対照表(決算規模2,261億円) (単位:千円)

科 目	資 産 の 部		
	本年度末	前年度末	増減
固定資産	201,206,775	193,531,798	7,674,977
有形固定資産	123,592,780	108,086,975	15,505,805
土地	20,031,555	17,729,670	2,301,885
建物	63,701,953	53,776,818	9,925,135
構築物	4,305,213	3,769,684	535,529
教育研究用機器備品	14,076,759	11,665,876	2,410,883
その他の機器備品	368,108	71,592	296,516
図書	14,973,529	14,667,003	306,526
車	17,017	26,856	△ 9,839
建設仮勘定	6,118,646	6,379,476	△ 260,830
その他の固定資産	77,613,995	85,444,823	△ 7,830,828
電 話 入 権 等	238,431	157,779	80,652
収益事業元入金	787,299	787,299	0
貸 付 金	608,149	698,974	△ 90,825
貸 与 契 金	4,339,035	4,282,866	56,169
差入保証金	49,423	46,798	2,625
引当特定資産	71,591,698	79,471,117	△ 7,879,449
流動資産	24,999,166	28,402,647	△ 3,503,481
現金預金	17,794,555	21,472,344	△ 3,677,789
未収入金	6,464,845	6,291,113	173,732
材 料	118,498	123,611	△ 5,113
貯 蓄 金	12,995	12,120	875
立 替 金	5,538	11,567	△ 6,049
前 払 金	436,835	416,721	19,114
仮 払 金	78,900	75,151	3,749
資産の部合計	226,105,941	221,934,445	4,171,496

負債の部 (単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	25,457,612	25,789,026	△ 331,414
長期借入金	4,910,960	5,288,800	△ 375,840
短期未払金	1,855,079	1,871,090	△ 16,011
退職給付引当金	18,691,573	18,631,136	60,437
流動負債	12,433,431	14,147,059	△ 1,713,628
短期借入金	305,840	30,800	275,040
短期未払金	5,440,577	7,487,099	△ 2,046,522
短期受入金	5,576,566	5,648,289	△ 71,723
預り金	1,110,356	980,787	129,569
仮入金	92	84	8
負債の部合計	37,891,043	39,936,085	△ 2,045,042

基本金の部 (単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	172,556,232	150,924,846	21,631,386
第2号基本金	19,956,912	29,403,404	△ 9,446,492
第3号基本金	2,353,879	1,953,879	400,000
第4号基本金	4,547,000	4,367,000	180,000
基本金の部合計	199,414,023	186,649,129	12,764,894

第1号(施設・設備取得) 自己資金で購入した施設・設備費の累計額。  
 第2号(施設組入) 将来の施設・設備取得のための積立金。  
 第3号(遊技基金) 奨学金等として保持している金額。  
 第4号(遊技基金) 恒常的に保持すべき資金の額(1ヵ月分)の積立金。

消費収支差額の部 (単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	増減
年度繰越消費支出超過額	11,199,125	4,650,769	6,548,356
消費収支差額の部合計	△ 11,199,125	△ 4,650,769	△ 6,548,356

負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計 (単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	226,105,941	221,934,445	4,171,496

## 貸借対照表の概要

(前年度決算との比較)注1:・・・増加を示す 注2:・・・減少を示す

① 純資産(資産総額から負債総額を差し引いたもの)は1,892億円で、62億円の増加。  
 ② 貸倒損失に占める純資産(自己資金)の割合は83.2%で、1.2ポイント上昇。  
 ③ 引当特定資産 ↓ 第2号基本金引当特定資産等79億円の減少。

負債の部 負債総額は20億円の減少。  
 ● 短期未払金 ↓ 施設関係支出の未払の減少。

基本金の部 基本金総額は128億円の増加。  
 ● 第1号基本金 ↑ 2号館新築、新中央図書館(仮称)新築、福岡大学病院新築棟新築、筑紫病院新築棟(仮称)新築および九州女子高校からの固定資産の承継等による組入による。  
 ● 第2号基本金 ↓ 第1号基本金への振替による。  
 ● 第3号基本金 ↑ 福岡大学児童センターによる組入による。

消費収支差額の部 年度繰越消費支出超過額を112億円計上。

(福岡大学を取り巻く環境)  
 少子化、私学補助の減少、グローバル化による世界市場不況など、学校法人をめぐる環境の変化は大きいものがあります。今後は学納金収入、手数料収入の増収は期待できません。一方、キャンパス整備事業の進捗に伴い消費支出が増加し消費収支差額が減少しています。したがって、新たな収入の確保が重要となり、収支の改善を図るとともに、教育研究・医療活動および学生サービスの向上と経営の安定に努めています。

(学校法人福岡大学監事からの報告および意見)  
 次の事項について、今後一層の効率化、効果的な対応を要望されました。  
 ① 大学の経営体制について ② 施設関係について  
 ③ 教育研究の強化について ④ 九州医科について  
 ⑤ 入学支援等と就職率について ⑥ 福岡大学病院と福岡大学筑紫病院の業務連携について



貸借対照表の構造

資産の部	負債の部
固定資産	固定負債
流動資産	流動負債
消費収支差額	消費収支差額

福岡大学の財政状態を次の2つの視点から見てみます。  
 ① 現有資産が自己資金によるものか、負債によるものか。  
 ② 必要な資産を現時点で保有しているのか、ないのか。

さらに、日本私立学校振興・共済事業団発行の「今日の私学経営」を基に、医師会連合会が公表した日本平均との比較で評価を行います。医師会連合会が公表した日本平均と比較して、財政状態が良好な場合、同程度の割合は、悪い場合と仮定しています。

(福岡大学の財政状態)  
 ① 自己資金(基本金+消費収支差額)の構成を数値化するとして83.2%です。この数値は高いほど財政的に安定していると考えられます。(評価)  
 ② 消費収支差額はマイナスであるが、基本金の割合は良好で、将来の施設取得に備えての資金も68(第2号)含まれています。(評価)

## 平成22年度に取得した主な施設・設備(施設・設備の名称および内容)

- 施設関係(土地・建物・構築物・建設仮勘定)
- ① 七隈ファミリーホール北側(福岡市城南区七隈八丁目1番261)土地購入
  - ② 新中央図書館(仮称)新築工事(平成20~23年度継続事業)
  - ③ 2号館新築工事(平成22~23年度継続事業)
  - ④ 福岡大学病院新築棟新築工事(平成18~22年度継続事業)
  - ⑤ 大濠高等学校第二体育館・中学校校舎・音楽棟・図書棟工事
  - ⑥ 福岡大学病院本館他改築工事(平成22~24年度継続事業)
  - ⑦ 福岡大学病院本館他築築部別房他改築工事
  - ⑧ 福岡大学病院新築棟外構工事
  - ⑨ 筑紫病院新築棟新築工事(平成22~26年度継続事業)
  - ⑩ 大濠高等学校・中学校校舎・音楽棟・図書棟工事
  - ⑪ 大濠高等学校・中学校グラウンド及び駐車場整備工事
- 設備関係(機械器具)
- ① FUTURE4関連機器(総合情報システム・ICT活用推進事業)
  - ② ナノ物質精密構造解析システム(理工学部・研究設備)
  - ③ プロトタイプ開発システム(工学部・研究設備)
  - ④ ナノ材料形成装置(理工学部・研究設備)
  - ⑤ 超精密電線測定システム(工学部・研究設備)
  - ⑥ 第三期統合医療情報システム第三ステップ(福岡大学病院)
  - ⑦ アンゴロCT装置(福岡大学病院)
  - ⑧ 心臓血管造影システム(福岡大学病院)
  - ⑨ トイブリーディング装置(福岡大学病院)

## 収入の3本柱

学生生徒等が納める授業料や入学金等のこと。講義料や補給料も含まれます。収入(帰属収入)の36.7%を占めます。

福岡大学病院や福岡大学筑紫病院の医療収入です。

## 収入の3本柱

教職員に支払われる給与等のことです。収入(帰属収入)の50.1%に相当します。

福岡大学が使ったお金の合計は、収入(帰属収入)の91.2%に相当します。

■平成22年度消費収支計算書(決算規模710億円) (単位:千円)

科 目	消費 収 入 の 部		
	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	25,865,230	26,047,398	△ 182,168
手数料収入	1,372,010	1,373,101	△ 1,091
寄付金	1,053,520	1,266,022	△ 212,502
補助金	5,909,570	5,775,833	133,737
資産運用収入	780,760	1,021,385	△ 240,625
資産売却差額	0	12	△ 12
事業収入	1,067,690	913,328	154,362
医療収入	28,294,050	29,499,199	△ 1,205,149
雑収入	1,435,090	1,531,906	△ 3,696,816
帰属収入合計	65,777,920	71,028,184	△ 5,250,264
基本金組入額合計	△ 12,392,950	△ 12,764,894	371,944
消費収入の部合計	53,384,970	58,263,290	△ 4,878,320

消費支出の部 (単位:千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費(退職給付引当金繰入額)	35,912,920	36,572,442	340,478
教育研究経費(減価償却費)	26,601,780	25,794,628	807,152
管理経費(減価償却費)	(5,264,730)	(5,223,285)	(41,445)
雑収入等利息	2,564,310	2,419,946	144,364
借入金等返済	(312,840)	(376,969)	△ (64,209)
借入金等利息	179,090	154,708	24,384
資産処分差額	0	859,708	△ 859,708
徴収不能額	0	104,149	△ 149
徴収不能引当金繰入額	0	10,067	△ 10,067
予備費	(92,540)	0	92,540
予備費	443,720	443,720	0
消費支出の部合計	65,701,820	64,811,646	890,174
年度繰越消費支出超過額	12,316,850	6,548,356	5,768,494
前年度繰越消費支出超過額	5,540,350	4,650,769	889,581
年度繰越消費支出超過額	20,857,200	11,199,125	9,658,075
帰属収支差額	76,100	6,216,538	△ 6,140,438

(注) [予備費]は未使用額を表し、( )内の金額は使用額を示す。

■平成22年度資金収支計算書(決算規模1,296億円) (単位:千円)

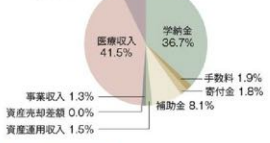
科 目	収 入 の 部		
	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	25,865,230	26,047,398	△ 182,168
手数料収入	1,372,010	1,373,101	△ 1,091
寄付金	1,053,520	1,148,446	△ 94,926
補助金	5,909,570	5,775,833	133,737
資産運用収入	780,760	1,021,385	△ 240,625
資産売却収入	0	12	△ 2,115,320
事業収入	1,067,690	913,328	154,362
医療収入	28,294,050	29,499,199	△ 1,205,149
雑収入	1,435,090	1,908,999	△ 473,899
前受金収入	5,643,300	5,576,566	66,734
その他の収入	41,037,940	44,500,000	△ 3,462,060
資金収入調整勘定	△ 11,806,880	△ 11,792,087	△ 14,793
前年度繰越資金収支差額	17,919,710	21,472,343	△ 3,552,633
収入の部合計	118,571,990	129,593,821	△ 11,021,831

支出の部 (単位:千円)

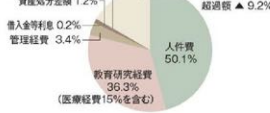
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	35,903,900	36,646,714	257,186
教育研究経費支出	21,337,050	20,564,619	772,431
管理経費支出	2,251,470	2,040,975	210,495
借入金等返済支出	179,090	154,708	24,384
借入金等返済支出	580,800	600,800	△ 20,000
施設関係支出	17,536,390	12,337,829	5,198,561
設備関係支出	5,685,590	5,607,654	77,936
資産運用支出	3,759,030	19,875,496	△ 16,116,466
その他の支出	18,117,010	20,820,835	△ 2,703,825
予備費	(208,550)	0	208,550
資金支出調整勘定	△ 5,712,750	△ 5,840,382	127,632
次年度繰越資金収支差額	18,612,960	17,784,555	828,405
支出の部合計	118,571,990	129,593,821	△ 11,021,831

(注) [予備費]は未使用額を表し、( )内の金額は使用額を示す。

## 増減収入



## 消費支出



※各科目の構成比は帰属収入を100%として表示しています。

## 消費収支決算の概要

(予算との比較)注1:・・・増加を示す 注2:・・・減少を示す

● 医療収入 ↑ 入院患者数および診療単価の増加。  
 ● 雑収入 ↑ 九州女子高校との合併に伴う資産・負債の承継による臨時収入によるもの。  
 ● 帰属収入合計は710億円となり、予算比59億円の増加。また、前年比26億円の増加となりました。九州女子高校との合併に伴う臨時収入35億円の増加分も増加しています。

## 消費支出の部

● 教育研究経費 ↑ 教育研究システム(FUTURE4)更新に伴う器具・設備・支払手数料の増加。  
 ● 消費支出の合計は648億円となり、予算比6億円の減少、前年比35億円の増加となりました。

## 消費収入と消費支出

● 消費収入と消費支出の差額は68億円で、消費収入が消費支出を超過しています。この超過額は前年度に比べて11億円の増加となり、消費収入と消費支出の差額は65億円の消費支出超過となりました。

## 資金収支決算の概要

(予算との比較)注1:・・・増加を示す 注2:・・・減少を示す

## 収入の部

● 資産売却収入 ↑ 有価証券の売却によるもの。  
 ● 医療収入 ↑ 入院患者数および診療単価の増加。  
 ● その他の収入 ↑ 特定資産の取り崩し等によるもの。

## 支出の部

● 施設関係支出 ↑ 教育研究システム(FUTURE4)更新に伴う器具・設備・支払手数料の増加。  
 ● 設備関係支出 ↑ 土地建物の売却および建物新築の増加によるもの。  
 ● 資産運用支出 ↓ 有価証券の購入および特定資産への繰り入れによるもの。

(注) [予備費]は未使用額を表し、( )内の金額は使用額を示す。



### 3 宝雲亭 ○福岡市城南区七隈4-8-17 ○092-871-0845

**学生のための定食がうれしい 博多一口餃子の専門店**

博多「餃子の専門店」ですが32年前に七隈四ツ角に店を出した時から「学生さんのために」と「餃子定食」きもに「定食」というワードを定食メニューをそろえています。タマネギをなくさん作った餃子はご主人の松尾忠次さんが「親子三代にわたって食べに来てくれる方」と語るほどの人気。タマネギは季節によって甘みが変わりますが、それを一年中「宝雲亭」の変わらない味として提供するのが専門店の技。



ねじり鉢巻きがトレードマークの松尾忠次さんと、気さくで明るい京子さん。



博多一口餃子の老舗として有名な中洲「宝雲亭」ののれん分け。

「夕方5時からの営業なのでお酒を飲む店と思う人が多いかもしれませんが、定食だけを食べてくれる方も大歓迎。実際に実験などを経て9時過ぎに定食を賣



餃子定食(690円)には、自家製柚子胡椒が自慢。

### 4 食事の店 わたなべ ○福岡市城南区七隈8-13-15 ○092-871-2266

**37年間、福岡大学の学生の胃袋を支え続けた 野菜たっぷりメニュー**

この店は、道路拡張や地下鉄工事の関係で、少しずつ場所を移動しながらも37年間の福岡大学の学生の胃袋を支え続けてきました。ご主人の渡邊呈義さんと奥さんの中には、孫ができた人もいます。よ、今の店の内装工事をしてくれたのは常連だなお客さんです」とうれしそうに語ります。

名物はまさに山の様に野菜が盛りだくさん「ちゃんぽん」ほかに「肉いため定食」をはじめとする定食類にも野菜をたっぷり使っています。「店を始めた頃はまだ白米も浅かったから、お客さんの要望でいろいろとメニューの内容も変わりました。



多くの卒業生が今でも食べに来る「ちゃんぽん」は600円。



定食類、麺類、一品料理と豊富なメニューも自慢。

た。でも学生さんのことを思うと値段だけはなかなか変えられませんでした。野菜不足のことも財布のことも心配してくれる優しさで、長年愛される理由がもたらされています。



かつての常連客が今でも「お父さん、お母さん」と慕う渡邊呈義さんと紀子さん。

### 1 カフネ ○福岡市城南区松山2-34-17 ○092-865-2337



パティシエも兼ねる船越さん(右)とスタッフの松永さん。

**かわいくおいしいケーキたち**

この秋オープン3年目を迎えるスイーツ専門店。ビッド感あふれる店内に一歩足を踏み入れると、焼き菓子やドライフルーツ、そして解やかなケーキが迎えてくれます。「お客さんのほとんどが福岡大学の学生さん。女子学生ばかり思われがちですが、実は半分近くが男子学生です」と話すのはオーナーの船越幸恵さん。一番人気はタルト類。サクサクのタルト生地とその上からクリーム生地のパナッスが絶妙で季節ごとのフルーツが彩りよく飾られます。また、注文を受けてからクリームを注入したり、表面を焼いたりひと手間をかけるのもこの店のこだわりの一つです。

「学生の皆さんがよく利用されるのが誕生日などの2パティケーキ。2人で食べられる小さなサイズが受けているのかもしれないですね」



店内ではイトインも可能。うれしいドリンクサービス付き。

2人で食べられるアンバーサリケーキは1,050円から。



### 2 自転車工房 神宮 ○福岡市城南区七隈8-6-33 ○092-865-0212



人気のスポーツタイプは5万円から。

**本格的ロードレーサーから 手軽な一台までそろえる自転車店**

ご主人の大神善次郎さんは、自転車歴20年以上で、九州で開催される競技大会では運営の手伝いもしている。自転車職人。本格的に自転車を楽しむ人のために、さまざまなパーツを組み合わせて、その人のポテンシャルを最大まで引き出す一台を組み合わせられていきます。それが、自転車工房を営む神宮。一方、学生や地域の方々のために、福岡市の迷惑防止条例で回収された自転車を買い取り、整備してから安価で販売するという。街の自転車屋さんの一面もあります。

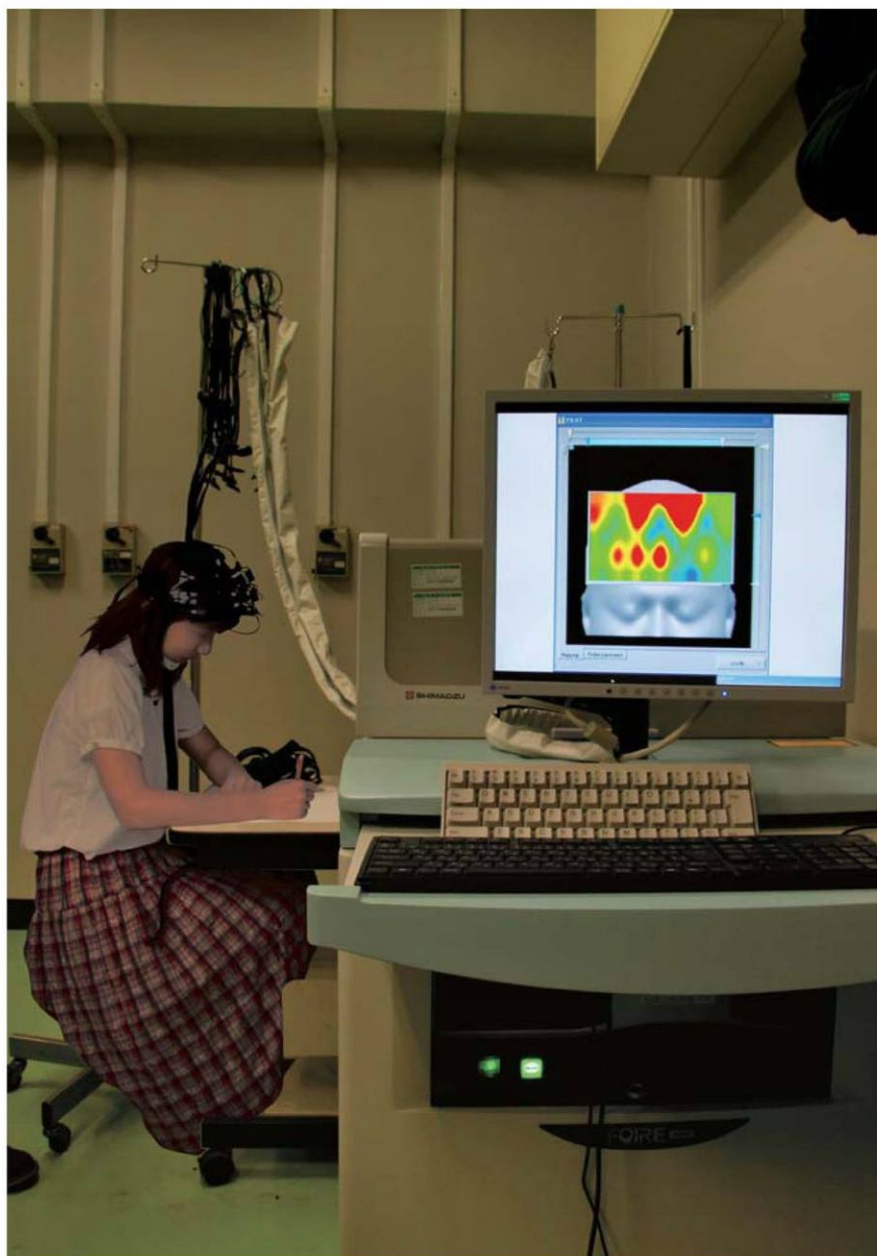
「最近では、携帯電話を見ながら自転車を乗る人が多い。それで車にぶつかつた場合は、自転車側が車の修理代を請求されるケースもあります。」



バンクをはじめどんな故障も職人の技で。



「夢を持って頑張れ、福大生」と熱いエールを送る大神さん。



## 「学宝」👉 探訪

### vol.7 近赤外光脳機能 イメージング装置 FOIRE3000

文部科学省教育研究高度化のための支援体制整備事業の一環として2年前に工学部に導入された装置。近赤外光(X線と違って人体に悪影響のない物質透過光)を使って脳表面の血液中の酸素量を調べることができます。人が何らかの動作をする、あるいは何かを考えるだけで脳の血流は変化しますが、それをビジュアル化して見ることができます。

「被験者に大きな負担が掛かりませんし、マニュアルに従えば簡単に操作できます。結果は誰にでも分かりやすいビジュアルで出てきます。まさに現在の情報端末機と同じ

感覚で脳の血流を調べられるのです」と話すのは工学部の三島健司准教授。

装置が置かれている化学システム工学科では食品メーカー、化粧品メーカーとの産学連携に活用しています。加えて、薬学部は薬による動態効果を調べる、医学部とスポーツ科学部は共同で喫煙による脳の血流変化を調べるなど、さまざまな学部学科の研究に活用され、管理する三島先生のもとには「今、あの装置は使えますか?」という電話が頻繁にあるそうです。この装置は、9学部が1キャンパスに集まる福岡大学において、学内連携をより活性化する役割も担っ

ているようです。さらに、この装置を利用する経済学部の学生と医学部の学生が知り合い、ベンチャー企業論で「病院改善チーム」を立ち上げるなど、学生同士の“異学部交流”という効果も生み出しています。

「今、電子情報工学科の研究室と一緒に、人が直接操作するのではなく、脳の血流を利用して頭で考えるだけで動かせるロボットの実験にもトライしています」と語る三島先生。

この装置が結ぶ学内連携は、私たちにとんでもない未来を見せてくれるかもしれません。